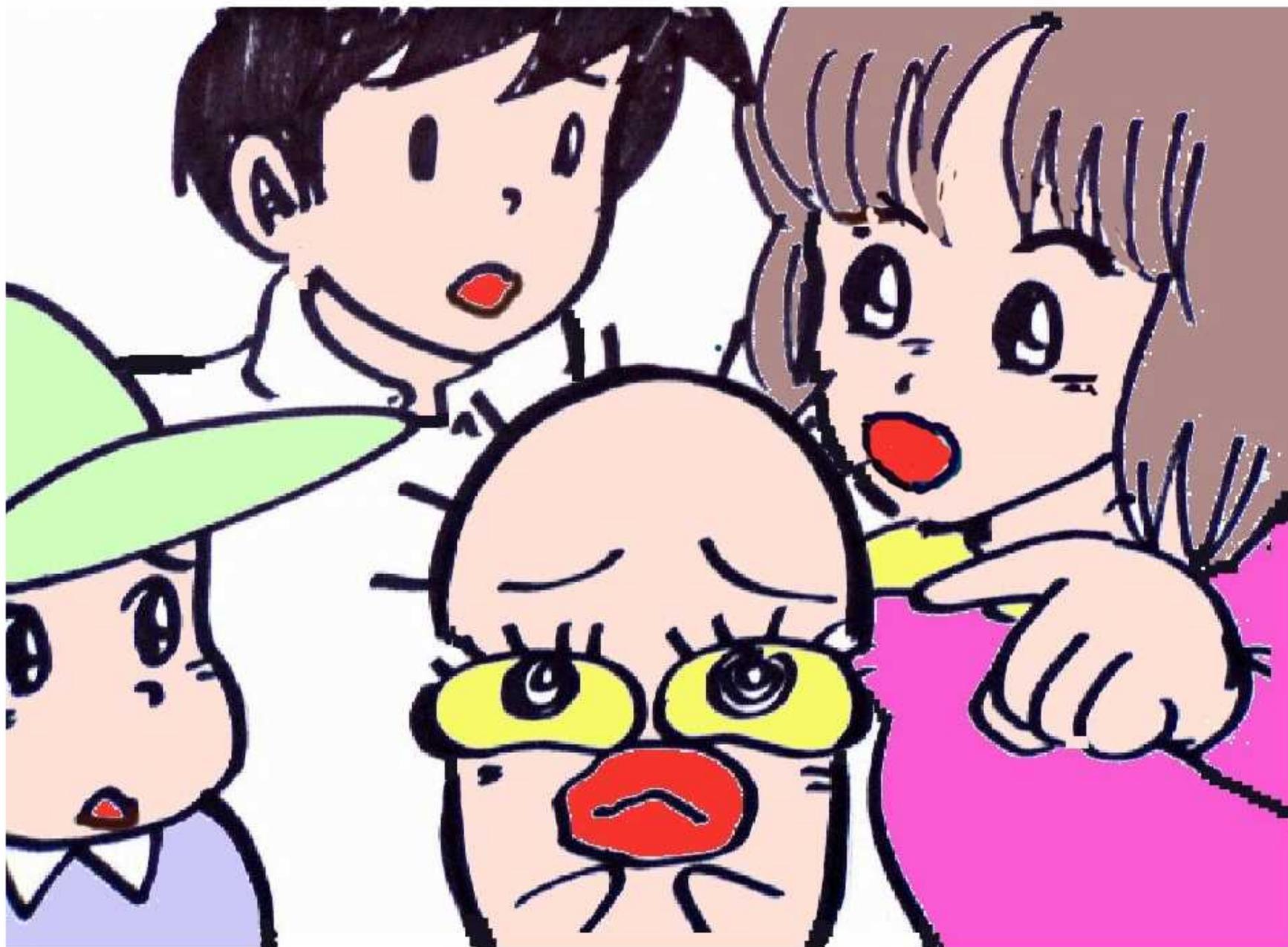


最小公倍数 (「さいしゅうこうばいすう」)



うめこさんを救え！



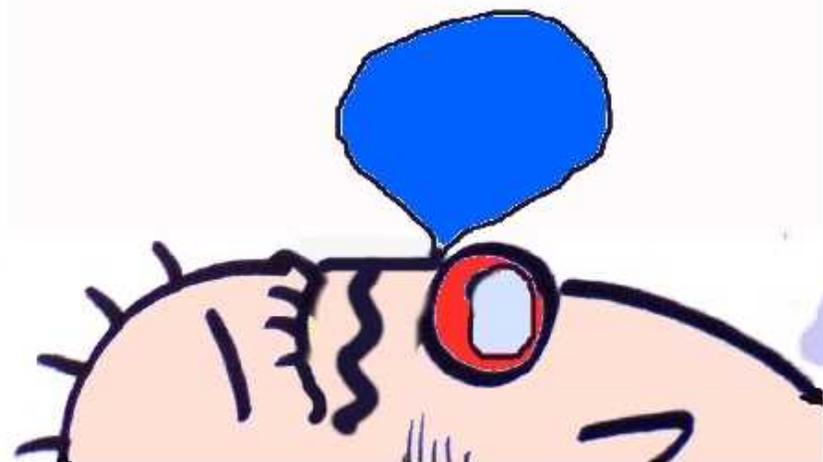
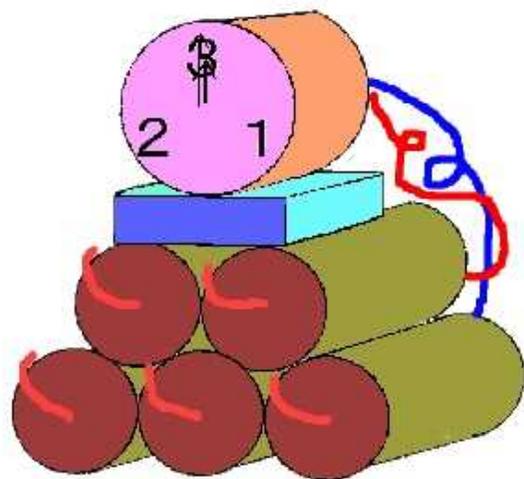
⑧の裏

梅子さんを救えのはじまりはじまり。

作 芦川健 絵板垣賢二

あの、梅野梅子さんが、大ピンチになってしまいます。どうなるのでしょうか。

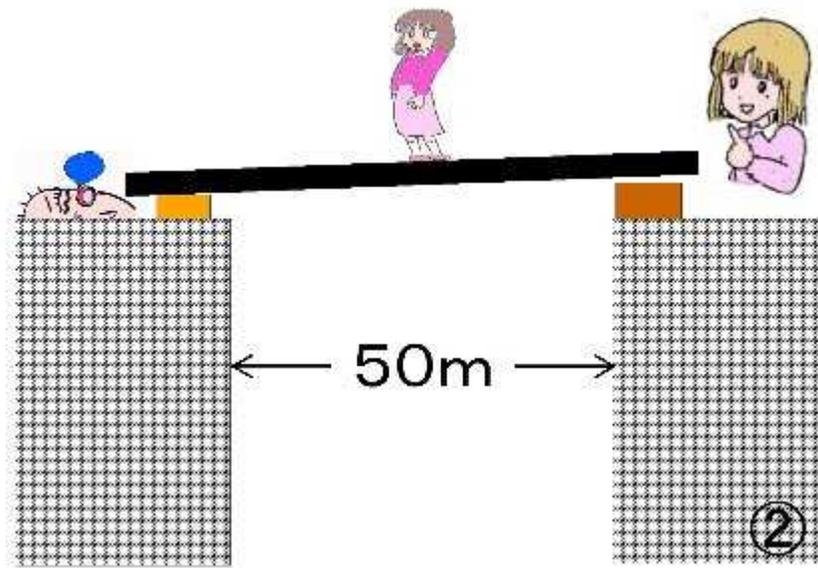
うめこさんを救え！



作 芦川健 絵 板垣賢二

広島算数サークル
伊田忠司

①



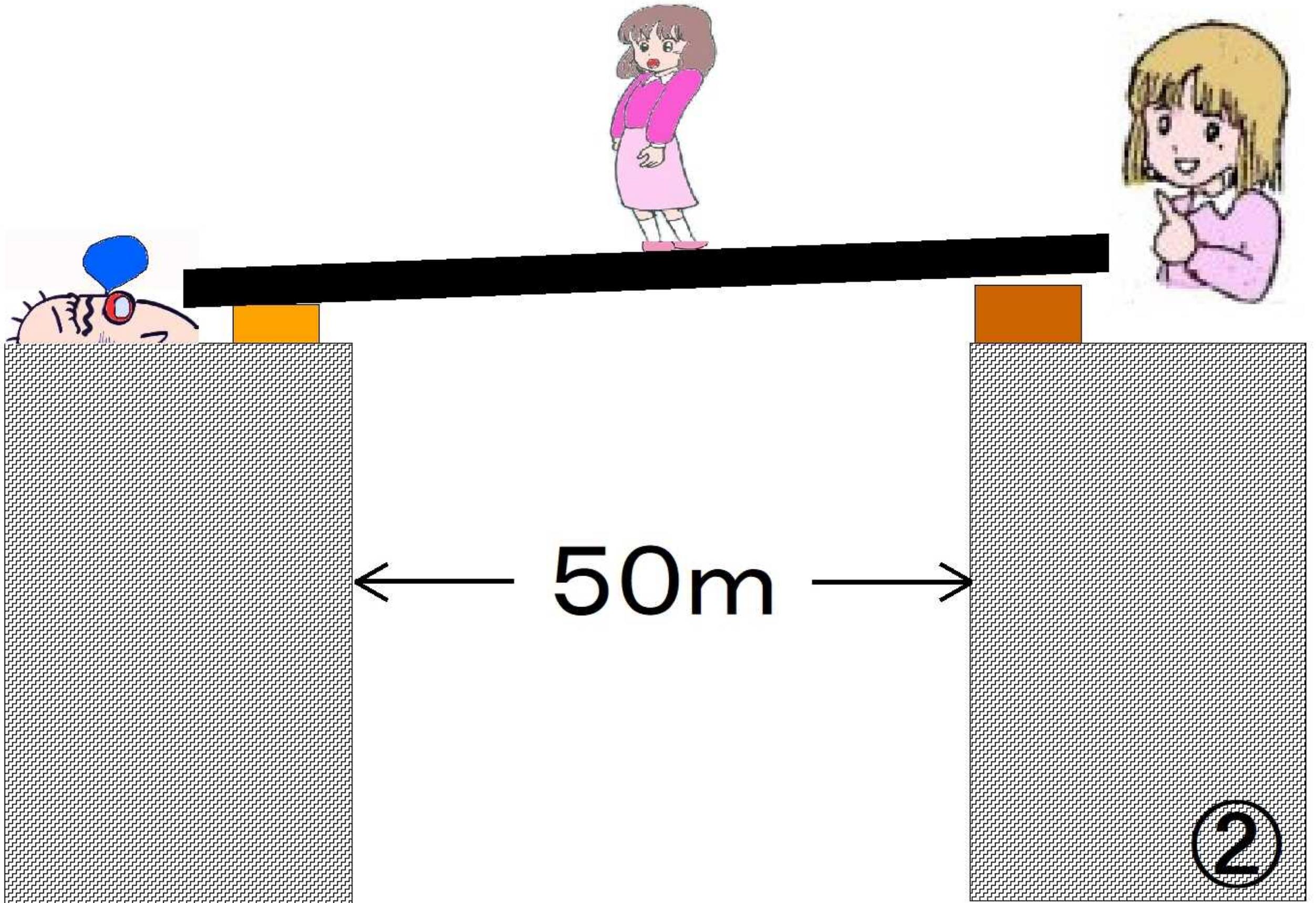
①の裏

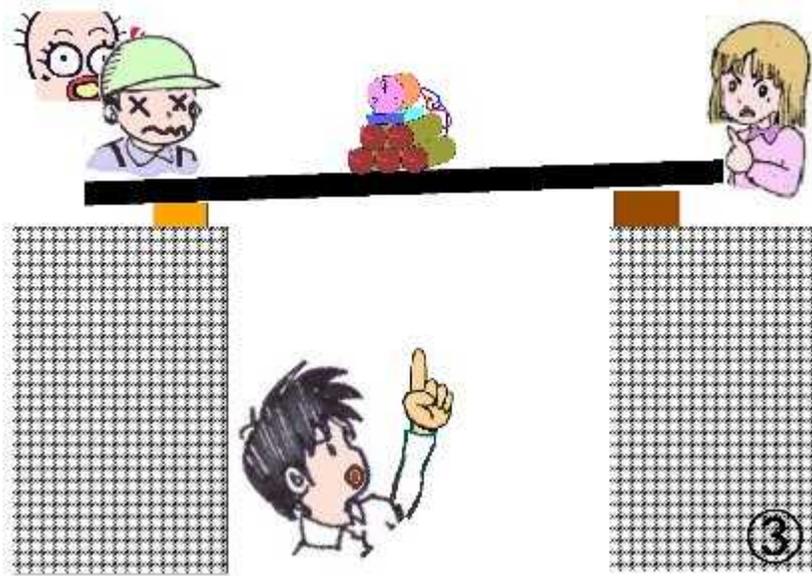
松野松雄君、竹野武夫君、梅野梅子さんとお化けのキューちゃんたちは、不思議の谷にやってきました。「ここを渡って戻れば、願いがかなうの」梅子さんが言いました。

松野松雄君は、「怖いから、いやだよ。」竹野武夫君も、山の景色を楽しんでいます。キューちゃんは？なんと、昼寝をしています。

「いいわ、私だけで渡ってみるわ。私は、お姫様になりたいの！」谷は、幅が、50m 高さも、50mあるのに、梅子さんは渡ってしまいました。そのとき、

何やら、怪しい人影。あっ



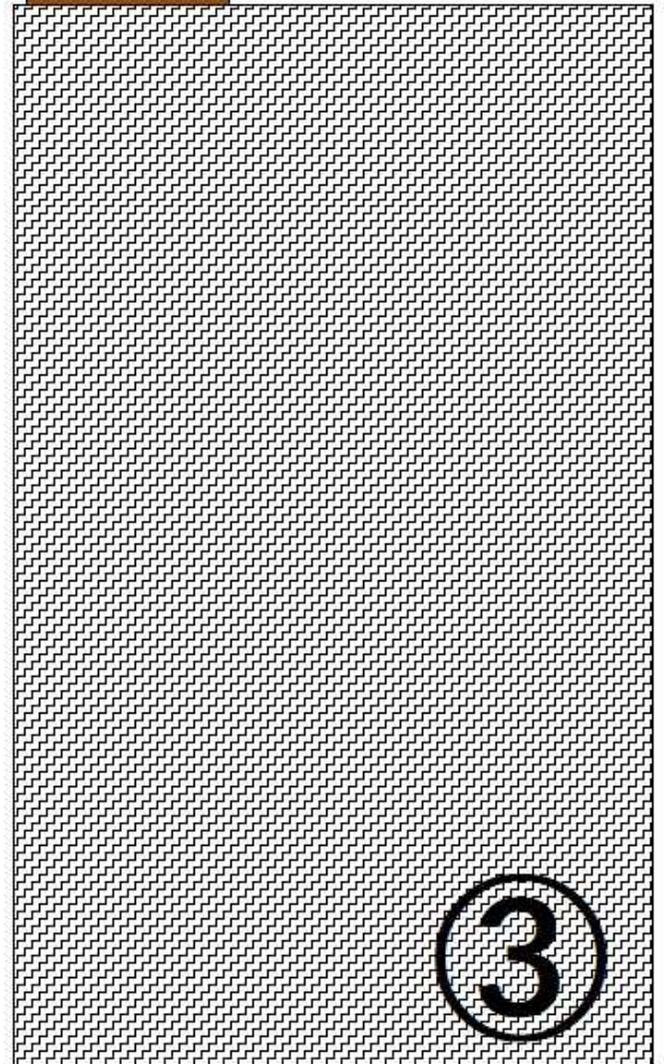
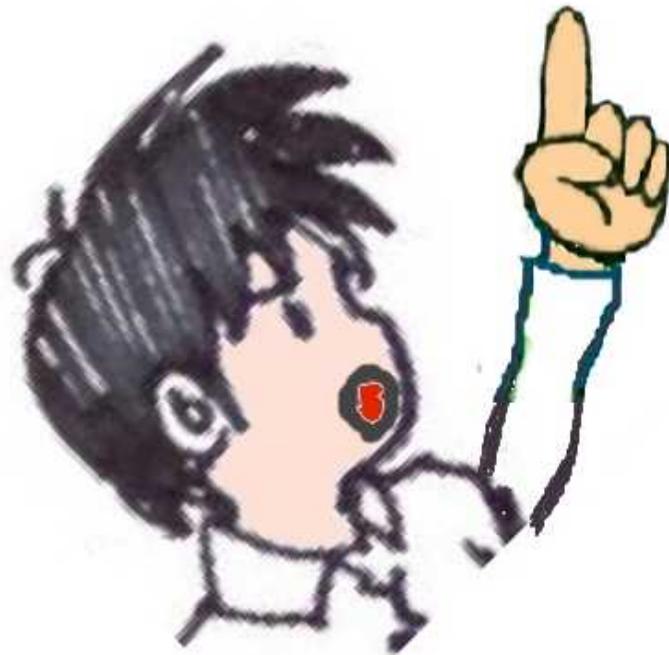
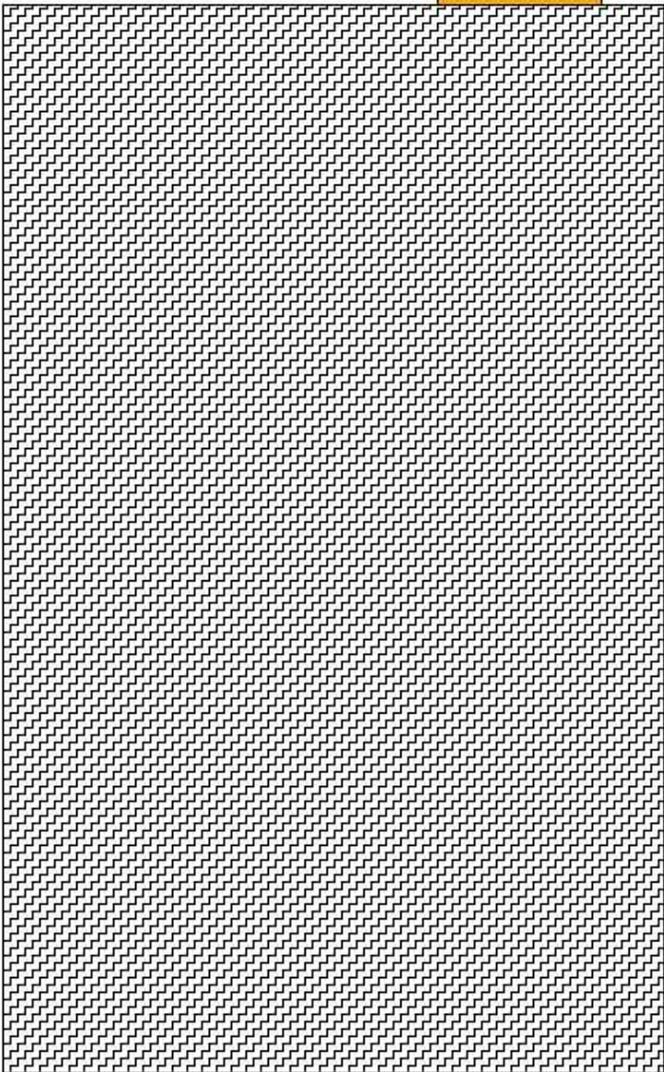
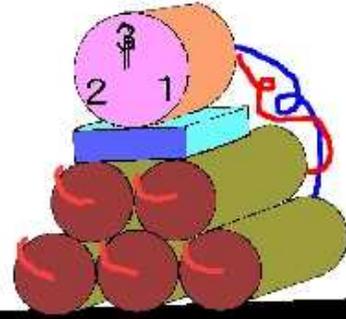
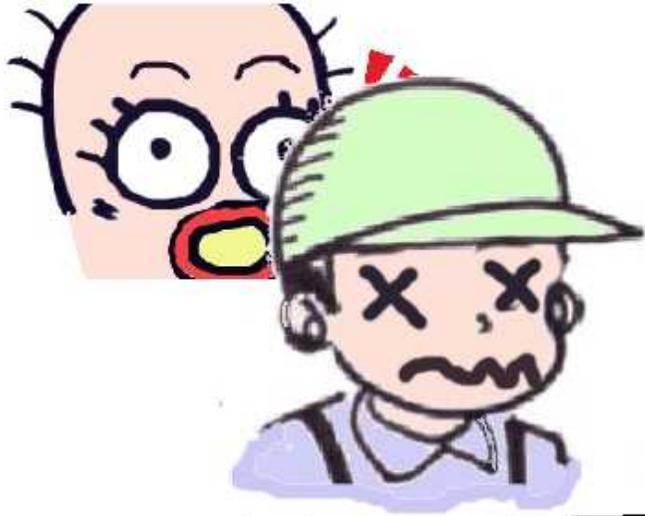


②の裏

時限爆弾が、橋の真ん中に仕掛けられています。時間制限は3分です。時限爆弾を止めるには、橋を地面から平行にしないといけません。今、右のほうが高くなっています。左は、2cmの台、右は3cmの台が橋にひっつけられています。

「誰か助けて！」梅子さんの声です。竹野武夫君が、爆弾を発見しました。「もう、ダメだ」松野松雄君は、頭がこんがらがってしまいました。

松野松雄君は、「キューちゃん、起きてよ、大変だよ、梅子さんが。」
キューちゃん「どうしたの？爆弾が3分で爆発それは大変。」タラリラタラー



タイムストッパー！



④

② の裏

きゅーちゃん「タイムストッパー」

松野松雄君「なぜ、そんなものもってるの？まあいいや、早く止めないと。」

きゅーちゃん「これで、時限爆弾は止まったよ。早く、何とかしないと。」

左の崖には、2cmの高さのブロックが、たくさん。右の崖には、3cmの高さのブロックがたくさんあります。

ねえ、どうしたらいい？みんなも考えて、教えて。

タイムストッパー！





④の裏

同じ高さにするには、左側に何個、右側に何個積んだらいいか、個人で考えてみよう。

(3分)

何個積みばいい？

左側に 3 個、右側に 2 個 (谷の間に、書いて、実際に、タイルを橋の下においてみる。)

そうすると、 $2\text{ cm} \times 3 = 6\text{ cm}$

$3\text{ cm} \times 2 = 6\text{ cm}$ で、同じ高さだ。 すごいねみんな。

黒板に
(谷に)

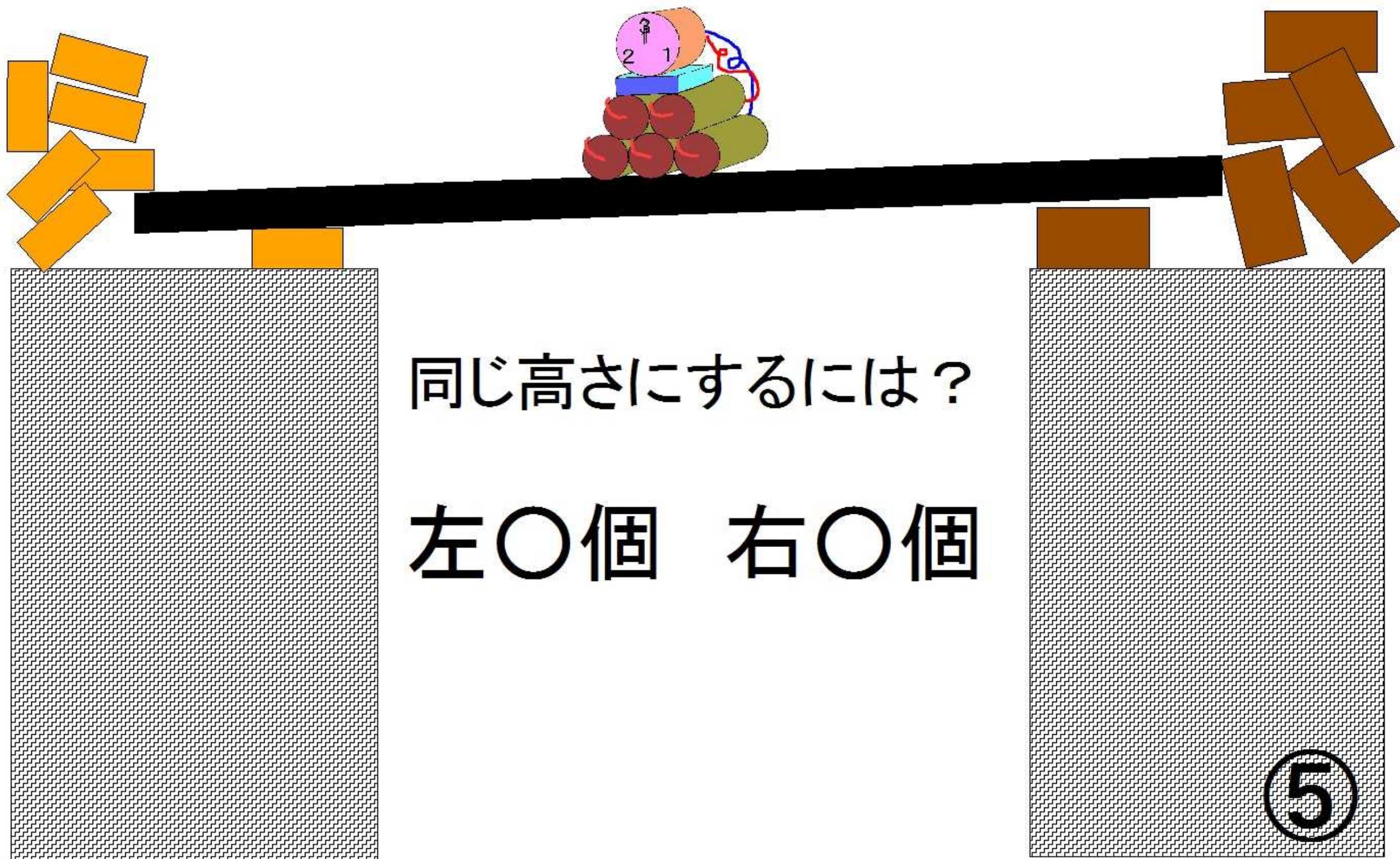
左 3 個
↓
 $2\text{ cm} \times 3$
↓
6 cm

右 2 個
↓
 $3\text{ cm} \times 2$
↓
6 cm

を書いていく

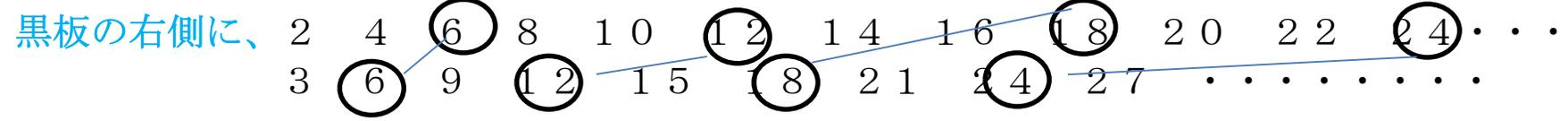
■ = 高さ2cm

■ = 高さ3cm





⑤の裏
 他にも、同じ高さになるのは、ないかな？

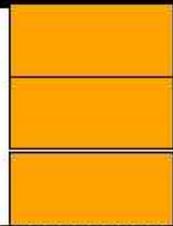
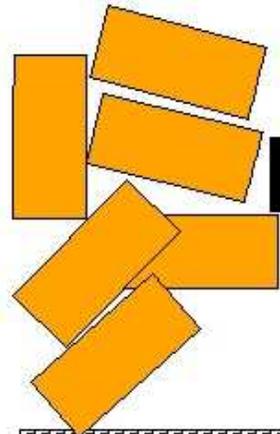
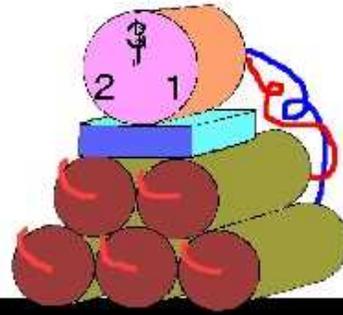


を書いていく

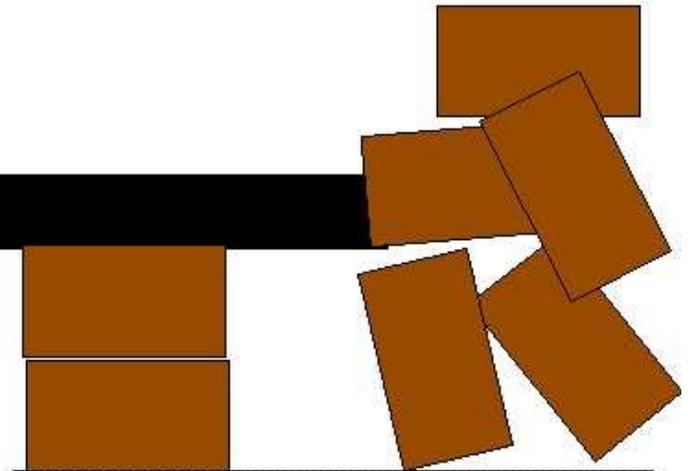
どれも、2cmと3cmで割り切れる 同じ倍数だから、これを (さっと引く)

■ = 高さ2cm

■ = 高さ3cm



同じ高さにするには？



左3個

右2個



$2\text{cm} \times 3$

$3\text{cm} \times 2$



6cm

6cm

他にも,



⑥

■ = 高さ2cm

■ = 高さ3cm



⑥ の裏

これを 公倍数と言います。

その中で、一番、早く作れる倍数は何かな？

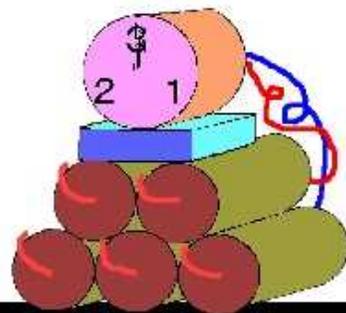
右側が3個、左側が2個 で6cm

これを一番小さい公倍数なので、 最小公倍数と言います。

最大はというと、実は無限に、この世が終わるまで続いて最大は永遠に続きます。
なので、最大公倍数と言うのは、永遠にないということです。

■ = 高さ2cm

■ = 高さ3cm



同じ高さにするには？
他にも, 12cm, 18cm, 24cm...

公倍数
(「こうばいすう」)

一番早く作れる(小さい)倍数 6

最小公倍数
(「さいしょうこうばいすう」) ⑦

最小公倍数 (「さいしょうこうばいすう」)



⑦ の裏

竹野武夫君「なんだ、それじゃあ、キューちゃんの道具なんて意味なかったね。」

「簡単、簡単 左側に3つ、右側に2つおけばいいってこと。」

きゅーちゃん「ふぎゅー。」すってんころりん、転げてしまいました。

松野松雄君「キューちゃんの道具がなかったら、落ち着いて考えられなかったんだから。冷静な竹野武夫君だって、慌てていたじゃないか。」

⑧

梅子さん「キューちゃんのおかげよ。乙女のねがいをかなえるため、がんばってくれたんだから。ありがとうキューちゃん。」きゅーちゃんは、またまた、梅子さんの信頼を得たのであります。

梅子さんを救えの 終わり